

コナガを中心としたキャベツ害虫に対する各種殺虫剤の防除効果

(園試 環境部)

1. 背景とねらい

コナガはアブラナ科作物の重要害虫であり、有機燐剤や合成ピレスロイド剤が防除薬剤として使用されてきた。しかし、有機燐剤抵抗性コナガに卓効のある合成ピレスロイド剤の効力は年々低下し、特に平成の時代に入ると夏まき栽培では効力低下が著しく、キャベツ、ブロッコリー、ストックなどでコナガ多発の大きな原因となった。そこで、殺虫機作の異なるキチン合成阻害剤やBT剤などの茎葉散布剤ならびに土壌施用剤の使用法について、コナガを中心に防除試験を実施した結果、成果が得られたので参考に供する。

2. 技術内容

主なキャベツ害虫に対する各種殺虫剤の効果は表1のとおりである。

3. 指導上の留意事項

1) 作型や各種害虫の発生状況(図1)を考慮して薬剤を選択する。

2) 土壌施用剤関係

(1) 夏まき栽培ではコナガの発生が多いので、定植時に土壌施用剤を用いて初期の発生を抑制する。

(2) 残効期間は20日程度あるが、オルトラン粒剤は定植後に降雨が多いと残効期間が短くなる傾向にある。

(3) オンコル粒剤はヨトウガに対して効果が劣るので注意する。

3) 茎葉散布剤関係

(1) コナガは薬剤抵抗性が発達しやすい害虫なので、系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布を行い、1系統1作型1回の使用にとどめる。

(2) 合成ピレスロイド剤は春まき栽培では有効だが、夏まき栽培では劣る場合が多いので、夏まき栽培ではコナガ対象には使用しない。

4) ブロッコリー、ストックなど他のアブラナ科作物の防除対策はキャベツに準ずるが、使用農薬は作物ごとに異なるので防除基準を参考にする。

5) 体系防除については試験中である。

4. 当該事項にかかる試験研究課題名

キャベツ害虫類の発生生態と防除

5. 参考文献・資料 (略)

6. 試験成績の概要 (略)

表1 各種害虫に対する殺虫剤の効果適用表

使用方法	系 統	薬 剤 名	コナガ	ヨトウガ		モチンヨシウロ	タンマウナワギバ	アシブ類ラム
				若令	中令			
土壌施用	有機燐剤	オルトラン粒剤	◎	△	△	◎	◎	◎
	カーバメイト剤	オンコル粒剤	◎	×	×	◎	○	◎
茎	有機燐剤	オルトラン水和剤	○	◎	◎	◎	◎	◎
		トクチオン乳剤	○	◎	◎	◎	◎	◎
		カルホス乳剤	○	◎	○	◎	◎	○
		レルダン乳剤	○	◎	○	◎	◎	△
葉	カーバメイト剤	ラービン水和剤	△	◎	◎	◎	◎	△
	第3級アミン剤	パダン水溶剤	○	○	△	◎	△	△
		ルーバン水和剤	○	○	△	◎	△	△
		エビセクト水和剤	○	○	△	◎	△	△
散	パダン+有機燐剤	メラード水和剤	○	◎	◎	◎	◎	◎
	B T 剤	トアロー水和剤CT	◎	○	△	○	△	×
布	キチン合成阻害剤 (IGR剤)	アタブロン乳剤	◎	◎	○	◎	◎	×
		ノーモルト乳剤	◎	◎	○	◎	◎	×
	ピレスロイド剤	県防除基準参照	○~ ×	◎	◎	◎	◎	◎

◎優れる ○有効 △やや劣る ×劣る

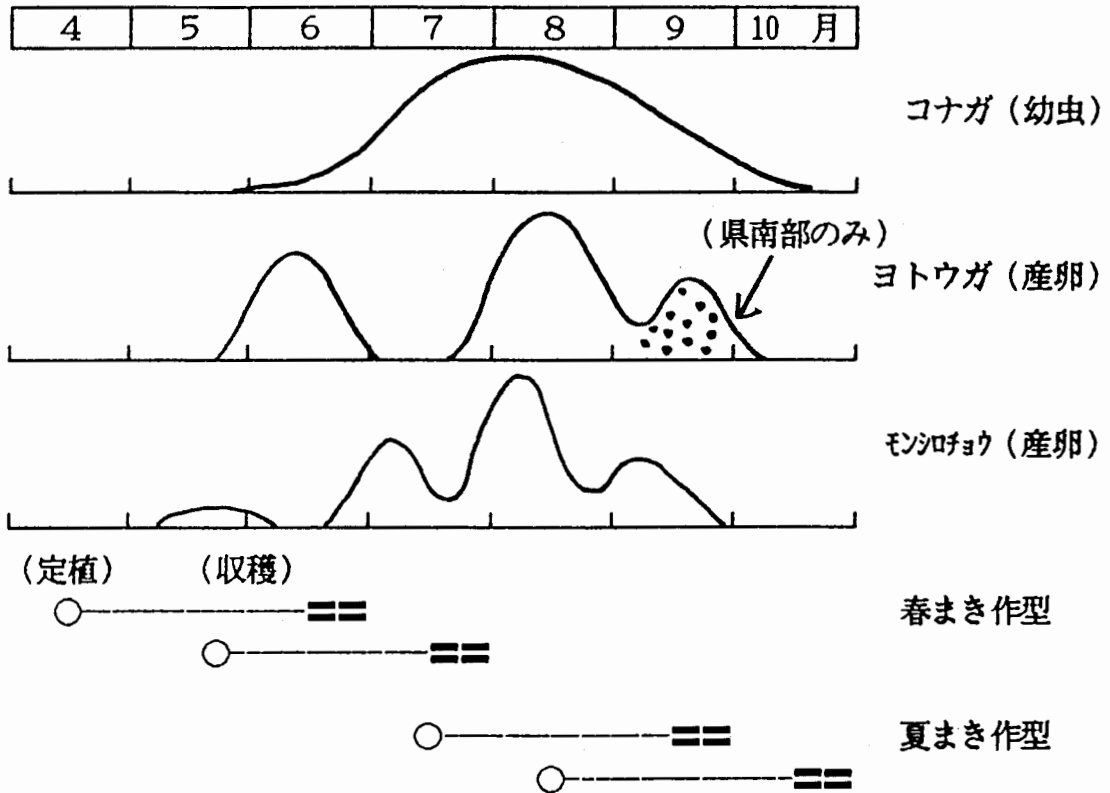


図1 キャベツの作型と主要害虫の発生時期（北上市，模式図）